

高津支援学校の コミュニティ・スクール



校 章

躍動するこどもを「高」で表現

学校情報

○所在地 川崎市高津区 ○開校 昭和 52 年

○設置部門 知的障害教育部門

○設置学部 小学部・中学部・高等部(本校・川崎北分教室・生田東分教室)

○児童生徒数 247 名 (R7.5.1現在)

○基本理念

「学び続ける力を学ぶ」

○学校教育目標

- ・生活に生かせる知識のネットワークを広げる
- ・やりたいことを実現するからだと技能を育てる
- ・自分らしく生きるための思考力・判断力・表現力を育てる
- ・社会で幸せにくらすための学びに向かう力を育てる

○学校運営方針

- ・アセスメントスキルを高め、根拠のある指導・支援を行う
- ・題材・教材・教具を常に創意工夫・改善し、質の高い授業をめざし続ける
- ・小学部から高等部まで、系統性・一貫性のある教育を行う
- ・キャリア発達の視点でカリキュラム・マネジメントを進め、学習活動を組み立てる
- ・共生社会の実現に向け、地域と連携して教育活動を進める
- ・整理整頓・業務の効率化を図り、学習活動を最大限に有効にする環境を整える

『学び続ける力を学ぶ』

高津支援学校の基本理念となっているこの言葉は、卒業生の保護者である学校運営協議会委員が、まなび部会の中で発した言葉です。「卒業後も学びは続いていき、学校ではその学びを続けるための力を育てることが大事、ということを卒業後に思った」とのことでした。

『学び続ける力を学ぶ』ために、学校での教育をどう進めていくと良いか。地域との連携をどう図っていくと良いか。学校運営協議会の場での協議したことを基に、活動を展開してきました。

委員構成

大学教員・近隣小学校長・自治会長・企業関係者・社会福祉協議会関係者・PTA代表
近隣消防署長・福祉事業所関係者・障害者支援NPO法人理事長・当該校長

設置部会

- 学校評価部会：学校運営について協議し、学校関係者評価を実施
- まなび部会：学び、共生をテーマとして、教育課程や校内研究について協議
- あんぜん部会：安全、安心をテーマとして、防災訓練などについて協議
- あそび部会：余暇、生涯をテーマとして、毎年11月に開催される「秋の遊び場」について協議

まなび部会の取組み

部会設置の経緯

- 系統性・一貫性のある教育を行うための方策について、協議することを目的に設置
- 学校運営方針の特に以下の点に関連
 - ・小学部から高等部まで、系統性・一貫性のある教育を行う
 - ・キャリア発達の視点でカリキュラム・マネジメントを進め、学習活動を組み立てる

部会の構成員

- 管理職・事務長・総括教諭と、学校が指定した委員を加え、7人程度で構成

行事スタンダード完成まで

遠足や宿泊等の行事に系統性・一貫性を持たせたい!
設定の理由に根拠をもち、ねらいを明確にして、指導を積み重ねていきたい!

これまでの行事の取組を基に、育てたい力を考えていくためのツール『たかつ行事スタンダード』を作成しよう!

学校運営協議会で出た意見を基に、ミドルリーダー会(正副学部長:係長など)で検討、原案を作成

企画会議・職員会議で内容の確認
学校運営協議会で報告・意見聴取
年間指導計画作成に反映

たかつ
行事スタンダード
完成!

- 各学部での目標が明確になった。
- 授業改善に使う時間が増えた。



行事スタンダード (イメージ)

小学校			中学校			高等学校			
	遠足	宿泊	修学旅行	遠足	宿泊	修学旅行	遠足	宿泊	修学旅行
ねらい・観点①	〇〇に親しみ								目的地の〇〇について、学習し理解を深める
ねらい・観点②	△△								
ねらい・観点③	△△を知る								
ねらい・観点④	□□								
実施学年	全	5年	6年	全	2年	3年	全	1.2年	3年
活動時間	半日 1日	1泊2日	1泊2日	1日	1泊2日	2泊3日	1日	1泊2日	2泊3日
昼食	弁当	弁当 外食	外食	弁当	弁当 外食	弁当	弁当 外食	外食 調理	外食
交通機関	スクールバス 公共交通機関	スクールバス 公共交通機関	借り上げバス 公共交通機関	スクールバス 公共交通機関	スクールバス 公共交通機関	借り上げバス 公共交通機関 新幹線	スクールバス 公共交通機関	公共交通機関 新幹線 飛行機	
方面・行先候補	〇〇公園 ●●緑地	□□周辺 ■■工場	△△方面 ◆◆方面	〇〇ランド ●●公園	△△方面 ▲▲方面	☆☆方面 ★★方面	△△美術館 ◆◆パーク	□□方面 ■■方面	～地方 ～地方
宿泊場所	—	〇〇の家 △△荘	ホテル	—	〇〇の家 □□センター	ホテル 旅館	—	〇〇の家 □□センター	ホテル 旅館